

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立西唐津小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けて全校統一した組織的な取組を実施し、児童が見通しをもって学習できる体制を整えることができた。今後は、ICTを有効的に活用していきながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進め、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に努めていく。 ・外部人材を活用し、地域に根差した体験的活動を実施することで、児童の豊かな心の育成につながった。
---------------	---

2 学校教育目標	「学びのえがお」いっぱい 西唐津小学校 「人・もの・こと」に関わりをもち 心豊かに育つ西唐津っ子 ～ここ・きび・はき・どん～
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・知…やる気→学力向上に積極的に取組む ・徳…ほん気→「人・もの・こと」への関わりの中で心を育てる ・体…げん気→安全・安心な学校づくりに取組む
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上対策 ・単元のゴールとプロセスデザインの見える化 ・個別最適な学びと協働的な学びの充実 ・ICTの活用場面の設定	○個別最適な学びと協働的な学びを推進する唐津の学びスタイルチェックシートによる振り返り、平均3点以上	・定期的校内研修会等で、学びスタイルの進捗状況を確認する。また、他の学年と進捗状況を共有し、更なる取組の促進を図る。 ・ICT推進リーダーやICT支援員と協力して、ICT利活用に係る研修会を開催する。	A	・唐津の学びスタイルチェックシートの評価で、「個別最適な学び」は3.7、「協働的な学び」は3.6で目標の3点以上を達成した。 ・ラーニングマウンテンの取組は、研究教科の算数を中心に広がり、児童の主体的な学びにつながることができた。 ・ICT利活用については、各教科での授業改善や児童のスキルアップに向けた意識が高まった。	A	・各学年の児童が落ち着いて学習に取り組んでおり、タブレット端末を活用した学習が日常化している様子が確認できた。 ・一方で、学力差への対応は引き続き課題であり、学級規模を踏まえた指導方法やICT活用の工夫が求められる。	学力向上コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童が90%以上とする。	・縦割り活動などを通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。 ・児童の善い行いに気づいた児童が「ほめほめカード」を書いて掲示したり、全校放送したりすることで児童のよさを認める温かい雰囲気作りをする。	A	・「友達に対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか」の質問について、92%の児童が肯定的な回答をしていた。 ・1年間、計画委員が中心となって取り組んできた「ほめほめカード」の活動により、児童同士が互いの良さを認め合う雰囲気づくりが育っている。 ・人権集会や縦割り活動を通して、自分だけでなく友達を思いやること、人権を守ることの大切さについて考えることができた。	A	・朝や下校時の見守りでは、あいさつの反応に差があり、元気のない子どもの様子が気にかかる。 ・公共心は、自然に身につくものではなくなっている。家庭でも学校でも教えなければならない。	特活部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめを見たり気づいたら、止めるようにしたり、大人に伝えたりしていますか」について肯定的な回答をした児童を90%以上とする。 ○「いじめの未然防止、早期発見・対応ができるよう、組織的な指導や取り組みを行っている」について肯定的な回答をした教職員を90%以上とする。	・いじめアンケートや毎月初めの「西小アンケート」の結果をもとにいじめの早期発見と見逃し0に努め、担任、生活主任、SC、SSW等と連携して迅速・適切に解決に当たり、再発防止に努める。	A	・「いじめを見たり気づいたら、止めるようにしたり、大人に伝えたりしていますか」の質問に、82%の児童が肯定的な回答をしていた。 ・「いじめの未然防止、早期発見・対応ができるよう、組織的な指導や取り組みを行っている」について、95%の教職員が肯定的な回答をした。教職員、児童ともに「いじめを許さない」「いじめを見たらすぐに相談する」という風土が育っている。毎月の「いじめアンケート」や全校朝会・全校放送での呼びかけで、早期発見・見逃しゼロに努めることができた。	B	・「西小いじめアンケート」を継続して毎月実施されていることは、子どもの変化を早期に把握するうえで有効であると思う。いじめの未然防止に向けた取組として大変意義があると感じる。	生活部
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・地域の「人・もの・こと」に関わる交流を通して学ぶ体験活動を各学年実施する。 ・教育活動全体を通して、教師は児童のよいところを認め、積極的に褒める。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は、89%であった。 ・1年間を通して、地域の人々と関わる体験活動や親子活動を各学年で実施することができた。 ・「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に、88%の児童が肯定的な回答をしていた。キャリアパスポートを計画的・持続的に活用していき、自己の夢や目標の実現に向けて努力する姿勢を継続させていく。	A	・地域の「人・もの・こと」に触れる体験を各学年で行ったことは素晴らしい。また、地域や公民館をはじめとする諸行事への児童の参加も活発で、嬉しく思う。今後も地域と家庭が寄り添い、子どもたちを温かく見守り育てる環境をともに築いていきたい。	特活部
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・体育委員会からの放送や担任からの呼びかけを継続し外遊びを奨励する。また、雨天で外遊びができない際も、体育館での運動を推奨して、運動する機会を増やす。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やすとともに、健康観察記録表による健康管理に努める。	A	・授業以外で運動やスポーツをしている児童は、全体で78.6%と目標を下回った。 ・持久大会、マラソン月間を12月に設け、昼休み終わりに全校児童でランニングに取り組んだ。また、今年度は例年よりマラソン月間を1週間長くし、運動の機会を増やした。 ・雨の日は、体育館での運動を推奨し、多くの児童が楽しく運動していた。また、「運動習慣をつける取組を行っている」と回答した教員は93%であり、その成果として、休み時間外でも遊ぶ児童が増えた。	B	・下校後、スマホを持って遊んでいる子が目立つ。 ・習い事などで子どもたちが自由に遊ぶ時間が少なくなる中、学校で外遊びの機会を確保していただいていることは、子どもたちの成長に役立っていると感じる。	保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・会議資料のペーパーレス化を推進する。 ・出勤管理システムで勤務時間を意識させ、19時退勤(定時退勤日は17時40分退勤)を推進する。	B	・勤務時間への意識が高まり、退勤時刻の改善が進んだ。 ・年休は平均11日で目標未達ながら計画的に取得できている。 ・ペーパーレス化で業務効率化も進んだ。 ・今後は定時退勤日の徹底が課題である。	A	・働き方の改善が進み、先生方に心の余裕が生まれることは、子どもたちの学びにも良い影響があると感じており、大切な取組として評価している。	管理職
●特別支援教育の充実	○共生社会の形成に向けた校内支援体制の充実と環境の整備	○UDの考え方に基いて、どの児童も安心して学校生活を送れるように、校内・教室環境を整える。 ○「支援を要する児童に対し、研修会や気になる子研修会等を踏まえ、適切な対応を取るよう努めている」の質問項目について肯定的な回答をした教員を90%以上にする。	・特別支援教育に関する研修会を行う。 ・児童についての情報交換を職員間で行い、指導や支援の方法を共有する。 ・困り感をもつ児童が学習に活用できる教材や、学習に参加できる手立てを紹介したり、共有したりする。	A	・「支援を要する児童に対し、研修会や気になる子研修会等を踏まえ、適切な対応を取るよう努めている」に肯定的な回答をした職員は90%を超えており、目標は達成できた。一方で、まだ十分でないと感じている職員も0ではないため、更に理解を広げていく必要がある。 ・UDの観点から前面掲示を減らしたり、座席配置を考慮したりと物理的な環境は少しずつ整ってきている。今後は子どもとの関わり方など人的環境も同時に整えていくことをめざしたい。	A	・学校では、支援が必要な子どもたちへの理解や工夫が広がってきており、安心して学べる環境づくりが進んでいると感じる。これからも、子どもとの関わり方を含め、よりよい環境づくりが進むことを期待している。	特別支援教育コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、重点目標「やる気」「ほん気」「げん気」を各部・各学級で具現化し、『「人・もの・こと」に関わりをもち心豊かに育つ西唐津っ子』の育成に努めてきた。その結果、学びの質の向上、思いやりの心の育成、地域体験の充実など、多方面で成果が見られた。また、支援体制や働き方改革の推進により、児童・教職員の環境改善も進んだ。 ・次年度は、ICTを生かした「個別最適な学び」と「協働的な学び」をさらに深めるとともに、思いやりの心の育成、いじめ防止、支援体制の充実、地域体験の継続により、安心して学べる環境づくりを進める。あわせて働き方改革を一層推進し、教職員が子どもと向き合う時間の確保に努める。
----------------	--